

第6回 新名寄市病院事業改革プラン策定検討会議 議事録

日時：平成28年3月30日（水）18:00～

場所：名寄市立総合病院講義室

【出席】橋本副市長、臼田総務部長、田邊健康福祉部長、木村財政課長、佐古東病院長、
富田東病院事務部長、和泉院長、室野副院長、酒井副院長、北原副院長、益塚看護部長、
早崎薬剤部長

（事務局）市立病院事務局 岡村事務部長、佐々木総務課長、桶谷医事課長ほか

【欠席】鈴木副院長、前川医療技術部長

1. 開会（岡村病院事務部長）

2. 議題

（1）改革プラン（案）について

【事務局】岡村事務部長より説明

- ・ 前回提示案からの変更・追記内容を説明
- ・ H27 決算値確定後、プラン中の各項目数値を置き換えたものを最終案とする。

【事務局】朝岡経理係長より収支計画について説明

- ・ 市立病院は、診療単価が年1.9%（過去5年実績の1/2で設定）の伸び、患者数は医療機関の役割分担が進み、増加するものと見込んだ。支出では看護師の不足人数を45名とし、希望も含めて年15名ずつ3年で補充するものとして算定。結果、H31年度には収支同額、H32年度には黒字化を見込んだ。
- ・ 東病院は、H28年度予算ベースで算定。現行の繰り入れルールが続き、赤字分は一般会計からの繰入金で補てん、H32年度まで収支均等するものと見込んだ。

【座長】前回提示案からの変更点、追記内容、収支計画について説明があった。皆さんから質問・意見があればお聞きしたい。

【委員】P.7 第3章 地域医療構想を踏まえた役割の中に、『後方支援病院』『後方支援病床』という表現があるが、具体的には何を示しているのか。

【事務局】地域の小規模医療施設の緊急時バックアップ体制の維持、緊急患者対応のための救急病

床の確保という意味で記載した。また、ガイドラインにおいても規模の大きい病院の役割として『後方病床の確保』と記載されている。

【委員】いままで市立病院が担ってきた役割を明記したということか。

【委員】今後、在宅が進んでいくと、今まで以上にそういう病床の確保が必要となるだろう。その辺りを国も考えてガイドラインに載せたのでは？

【委員】前回提示案では『後方病院』『後方病床』という表現だったが、違う意味にもとれるので、事務局に『後方支援』という表現の方が的確と意見した。

【座長】収支計画についてご意見があれば

【委員】東病院は病床数の調整が出てくると思うが、収支計画に反映しないのか。

【委員】病床数削減は免れないと思うが、他の病院との調整の上で行うことになる。現状ではスケジュールを予想もできないので、収支計画への反映は難しいのでは。

【座長】計画については時点修正をするということなので、計画通りとさせていただきます。

市立病院については、H32年度の診療報酬改定が厳しいものと考え、その前のH31年度までに、改善を目指すという考え、決意と理解しても良いのか。

【事務局】お見込のとおり。

【委員】経験上、収入の目標は達成することができても、支出が予想以上に伸び、最終的に収支が良くならないことが多かった。プラン中に盛り込むかは別だが、職員全員が支出抑制の意識をもって、きちんと数値で管理していくことが必要と思う。

【事務局】収支計画の数字は、現実的な数値から算出したもの。プランに盛り込んだ計画の中では、減価計算システムの導入による原価管理が支出抑制、意識の改善につながっていくものと考えている。

【座長】この後もH27決算値の落とし込み、細かな文言整理を出てくるが、他にご意見なければ、今プラン案を検討委員会として承認するものとしてよろしいか。

→ 反対意見なし

(2) 今後のスケジュール（案）について

【事務局】岡村事務部長より説明

- ・市立病院、東病院それぞれの運営委員、議会、労組等への説明、意見照会を行う
- ・H27 決算確定後に数値修正し、文言整理の上、最終案として報告、パブリックコメントにかける

(3) その他 特になし

3. 閉会

【座長】議会でも病院事業の状況に対する質問も出ており、市民・議会の関心が高い。今後、パブリックコメント、議会対応が出てくるが、事務局には丁寧な対応をお願いしたい。計6回の長丁場に渡りご議論いただき感謝申し上げたい。